

# さくら

vol.5

平成26年11月28日発行



医療コラム

おしえて! **ドクター**

## 糖尿病と共に 生きる

P4・5

art. 室屋裕太氏作  
「sunset glow II」  
第61回県美展入選

- 脳神経外科センターでの歯科回診から  
(いちき串木野日置歯科医師会 いちき串木野支部長 糸永昭仁先生)  
..... P2・3
- 地域医療を支える 医師会会員病院紹介 ..... P6・7
- 知っておきたい専門職の仕事 ..... P8・9
- みんなの掲示板 ..... P10
- 編集後記 ..... P10

# 脳神経外科センターでの 歯科回診から

医療技術の向上に伴い、何らかの病気をもちながらも、普通の生活ができるケースが大変多くなりました。

歯科医院においてもそのような患者さんを診察する機会が大変増えて参りました。われわれ歯科医師も歯科の範囲を超えて医科全体の知識や情報を求められるようになり、対応できる体制を築く努力を続けて参りました。

そんな中、脳神経外科センターに入院している患者の皆様に対して、歯科回診の依頼をいちき串木

野市医師会より頂きました。入院中における誤嚥性肺炎の予防を主な目的としてスタートし、2年間にわたり脳神経外科センターに入院されている患者の皆様の回診をさせて頂きました。

最初は大きな戸惑いを感じたのを覚えています。われわれ歯科医師が普段の治療で対応するのは、基礎疾患をお持ちといえどもしっかりとした意識があり、来院いただける患者さんがほとんどでしたが、脳神経外科センターにおいてはむしろ急性期・手術直後で、お



口を開けることさえままならない意識の覚醒レベルが低い患者さんの方が多く、特にICUにおいては人工呼吸器、流動食の器具が装着されていて、相応のリスクに注意を怠れない方がたくさんいらしたからです。

そのような状況の中でも、歯科回診で見せて頂いた患者さんのお口が大変きれいに維持されている事に非常に驚きました。脳神経外科センターでは入院中における、お口の中の衛生状態が治療経過に重要であるという意識が高く、以前より看護師さんによって口腔清掃が丁寧に実施されていました。様々な制約やリスクのもとでも、口腔清掃の重要性を認識して努力すれば、こんなきれいな口腔状態も可能なのだと逆に勇気づけらる思いでした。

その後、医科と歯科の連携を模索しつつ歯科回診を続けていく過程で、誤嚥性肺炎の予防のみならず口腔機能の回復、リハビリテーションの必要性が浮き彫りになってきました。これには入院中の往診による歯科治療のみならず、退院後にわたるスムーズな医療情報の共有が重要になります。医療情報の共有は医療施設にとどまら

ず地域の医師会や歯科医師会が取り組むべき課題ですが、脳神経外科センターが中核をなす「さくらネット」は地域の医療情報の共有に重要な役割を果たせると考えています。

もちろんこのような新たな試みには様々な困難が伴い、「言うは易く行うは難し」の連続とは思いますが、その重要性が医療のみならず介護の現場においても強く認識される昨今、脳神経外科センターでの経験やいただいた勇気を糧に、医科歯科連携、医療と介護の連携に微力ながらも努めて参りたいと思います。

末筆ながら脳神経外科センターにて貴重な経験をさせて頂きました医師会の皆様および脳神経外科センターのスタッフの皆様にござり感謝いたします。ありがとうございました。また今後ともよろしくお願いいたします。

いちき串木野日置歯科医師会  
いちき串木野支部長

糸永昭仁先生

profile

出身地：大阪

平成 4 年 鹿児島大学歯学部卒業 同 理工学講座

平成 8 年 医療法人武居歯科（熊本県球磨郡）就職

平成 17 年 羽島歯科クリニック（いちき串木野市）開業

## ケース①

その方は土曜日の丁度11時半ごろ来院された。Tさん67歳男性。優しそうな穏やかな紳士である。本人のお話では

「15年前交通事故に遭って、血糖値が300あったけど、S病院入院でよくなって食事と運動で自己流治療をやっていたんです。」

「その後、8年前の健康診断の時も血糖が300あったけど、結果に異状なしと書かれこりゃ〜医者は信用ならんと思ってその後は本やテレビで勉強していました。」

「1週間前から足の痺れがひどくなってきたので診察に来ました」

診察して足を見た途端

(キヤーこれは大変) (足切断、切断しても余命1年半、予後は癌より悪い)

いろいろな心配が頭に浮かぶ。

こういうとき私は早口になる。興奮して、ナースにあれこれ検査してと叫ぶ。本当に何年も医者をやっているのに、いつまでたっても、落ち着きがない。今となつては反省するが、その時はそれどころではない。

「良くなりますから、I病院に入院しましょう。」

とTさんに言うと、

「今日来てよかった、娘が早いほうが良いと声をかけてくれたから来たんです。」

## 第1回 ～糖尿病予備軍と糖尿病がもたらす合併症～

また新しく注目されている合併症には

- ①アルツハイマー型認知症  
(糖尿病でない方の約2～3倍)
- ②癌
- ③歯周病
- ④骨粗鬆症

がある。

当いちき串木野市は、他の市町村より一人当たりの医療費負担が10万円程高い。これを精密に検査すると、透析それも糖尿病からの透析が多いと判明している。

糖尿病や合併症は決して他人事ではない。家族や友人そして自分自身を守る為、是非健診を受けその結果を元に健康管理をして欲しい。

ケース①の方は、健診結果を医師が誤って伝えた為に医療不信となって受診をしなかった例ですが、私共も勉強し医療安全やリスクマネジメントに努め、患者様のお役に立てるように努力したいと考えてます。

さゆりクリニック

丸田小百合先生

おしえて! **ドクター**



と答えが返ってきた。

その後、娘さんに病状説明。娘さんも、Tさんに似て楚々とした美人。

説明途中でぼろぼろと涙を流された。(きれいな涙だな。…Tさんは糖尿病と足の病気で少し苦しめるけど、こんなに愛情あふれる、ご家族を持たれて、幸せで充実した人生を送っておられる方なのだ)

「糖尿病があっても、合併症があっても、共に歩いてくれる人がいたら、心は折れない、頑張れる。大丈夫。」

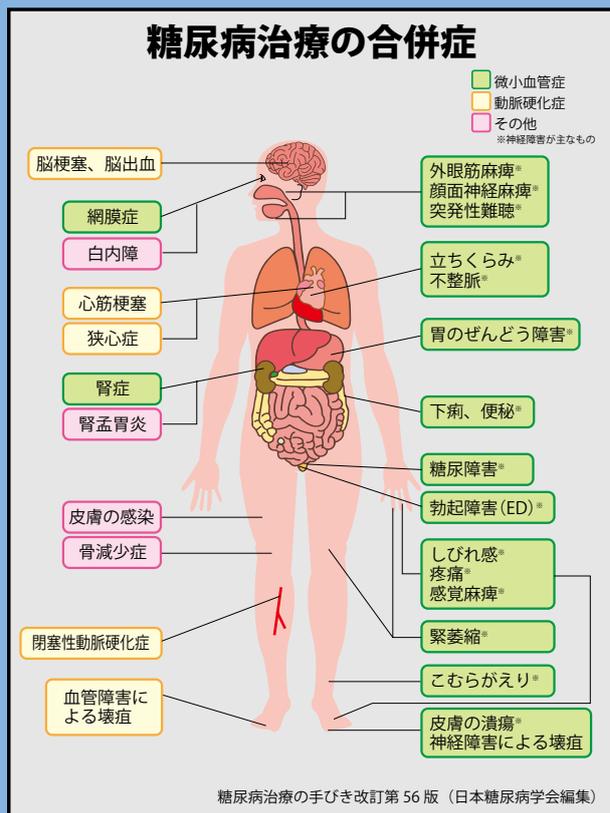
私たち医療に携わる者は伴走者です。

今は糖尿病は怖くない病気に変わりつつあります。どうぞ我々にお声かけください。

# 糖尿病と共に生き



上記グラフの様に、糖尿病患者は1100万人、予備軍を合わせると2300万人。人口の約4人に1人の方が、糖尿病かその予備軍という事になる。糖尿病の合併症は右図のごとく多彩である。



地域医療機関との相互連携を一層密に、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。

## しもむぎ耳鼻咽喉科



### ◆耳鼻咽喉科・アレルギー科

院長 / 下麥 哲也  
 住所 / いちき串木野市湊町3丁目87番  
 電話 / 0996-29-3384  
 診療時間 / 【月・火・水・金】  
 午前 8:30～12:00  
 午後 14:00～18:00  
 【土】  
 午前 8:30～12:00  
 午後 14:00～16:30  
 休診日 / 木・日・祝

#### 診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	16:30まで	×

しもむぎ耳鼻咽喉科は、平成25年10月9日に開院致しました。“誰でも気軽に相談できる、まちの医者さん”を目指して、日々精進しているところです。

【みみ、はな、のど】の病気はもちろん、【めまい、いびき、のみこみ】の悩みにつきましても、どうぞ、ご相談ください。

スタッフ一同、精いっぱい、対応させていただきます。これからも、当院をどうぞよろしくお願い致します。

しもむぎ耳鼻咽喉科 院長 下麥 哲也

医療法人社団博愛会

## くしきの宮崎小児科



### ◆小児科

院長 / 岩下 真由美  
 住所 / いちき串木野市昭和通134-4  
 電話 / 0996-32-1166  
 診療時間 / 【月・火・水・木・金】  
 午前 9:00～13:00  
 午後 15:00～19:00  
 【土】  
 午前 9:00～13:00  
 休診日 / 日・祝

#### 診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

当院は2006年開業の小児科専門のクリニックで、小児科専門医による診療を行っております。いちき串木野地区の小児医療に少しでも貢献できればと考えまして、平日は19時まで診療を行っております。また、お盆期間中や年末は日曜を除き通常通り診療を行っております。(ただし、年末31日は18時までの診療となっております。)

診療時におきましては、診察室を病児用の診察室と健康児用(予防接種・健診用)の診察室の2つに分けております。感染症やその疑いがある患者さんへは別途個室を3部屋設けており、他の患者さんとの隔離が可能となっております。院内感染を少しでも抑すべく医療用の空気清浄器(細菌及びウイルスに対応)を診察室と待合及び全個室に設置しております。

# 地域医療を支える 医師会会員病院紹介

医療法人 浩成会

## 産科・婦人科 久米クリニック



### ◆ 産科・婦人科

理事長・院長 / 久米 浩太  
 住 所 / いちき串木野市曙町 25 番地  
 電 話 / (代) 0996-32-7663  
 (FAX) 0996-32-8453  
 診療時間 / 【月・火・木・金】  
 午前 9:00 ~ 13:00  
 午後 14:00 ~ 18:00  
 【水】  
 午前 9:00 ~ 13:00  
 午後休診  
 【土】  
 午前 9:00 ~ 13:00  
 午後 14:00 ~ 17:00  
 休 診 日 / 水 (午後) 日・祝日

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	×	○	○	17:00まで	×

当院は昭和 36 年 11 月に京町に久米産婦人科として開院、昭和 41 年現在の曙町に移転しました。平成 5 年より産科・婦人科 久米クリニックと改名、現在まで 50 年余り、いちき串木野市の産婦人科医療に微力ながら邁進してまいりました。

#### 母乳育児推進

「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital : BFH)  
 当院は 2007 年 8 月、ユニセフ・WHO より全国で 44 番目、鹿児島県では初めての「赤ちゃんにやさしい病院」として認定されました。

現在、県内では唯一の認定施設として、お母さんたちへの妊娠中からの母乳育児についての啓蒙、ケア。出産時のパースカンガルーケア、分娩後の母子同室、お母さん・赤ちゃんへのエモーショナルサポート、退院後 1 週間目の母児訪問など、安全で安心な、そしてお母さんと赤ちゃんにやさしい病院を目指して、スタッフ一同頑張っているところです。

また、子宮がん検診など婦人科健診、婦人科疾患、更年期障害、不妊症など婦人科疾患についても鹿児島市立病院、鹿児島大学病院、その他の専門施設との連携の下、地域の皆様の健康で明るい笑顔をお届けできるよう、これからも頑張っていく所存です。

※写真は、「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital : BFH) 認定証です。

## さゆりクリニック



### ◆ 内科・糖尿病内科

院 長 / 丸田 小百合  
 住 所 / いちき串木野市昭利通 101-1  
 電 話 / 0996-32-0080  
 診療時間 / 【月・火・木・金・土】  
 午前 9:00 ~ 12:30  
 午後 14:30 ~ 18:00  
 ※研修会等で診療時間が変更になる事もあります。

休 診 日 / 水・日・祝

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	×	○	○	○	×
午 後	○	○	×	○	○	○	×

さゆりクリニックは、H23、4 月、生活習慣病・糖尿病の重症化の予防を目的に設立しました。

#### 地域活動として

- ①いちき串木野市と協力し、Eat de 健康メニュー (600kcal 塩分 3 g バランスの良い食事メニュー) の開発に取り組んでおります。
- ②いちき串木野市「絆・連携手帳を広める会」をドクター・コメディカルの方々にご参加いただき開催続けております。

本年 2 名のナースが CDE (糖尿病療養指導士) を取得しました。今後もナース栄養士が取得を目指してくれると思います。

月間栄養指導回数は約 100 回近くとなっています。今後もスタッフ一同地域の皆様のお役に立てますよう一致協力し精進していきます。どうぞ宜しくお願いします。

# 士の仕事

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター  
リハビリテーション部  
言語聴覚士主任  
兼 摂食嚥下療法室リーダー  
尾崎 幸平

## ビリ



### 4、<sup>せつしょくえんげしやうがい</sup>摂食嚥下障害のケアとリハビリ

摂食嚥下障害を改善させるケアやリハビリとして、摂食嚥下療法がありますが、当院では、平成25年度より摂食嚥下療法室が設けられ、食への意識向上、肺炎対策に積極的に取り組んでいけるよう現在形作りをしながら活動しています。医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士など多職種が、①摂食嚥下訓練チーム②口腔ケア・歯科チーム③NST(栄養サポート)チームに分け、専門性を生かしながら問題点を探り、食べることを目的とした業務改善や訓練を行っています。

その中で、まず、力を入れて行うケア・リハビリとして口腔ケアがあります。摂食嚥下訓練・肺炎対策は口腔ケアから始まるという過言ではありません。口腔ケアの目的として、細菌の減少による虫歯・歯周病・口臭・誤嚥性肺炎の予防、唾液の分泌促進、食べる為の準備運動、生活のリズムを整える、コミュニケーションが取りやすくなる等とても多くのものがあげられます。1日3回歯を磨くことは当たり前ですが、重症者などが口臭や口腔内汚染があるなら3回

に加えて頻回にケアすることが望ましいです。口腔内を綺麗にすることが、食べる喜びへと繋がっていくのです。

### なぜ食べる前の間接訓練 (口腔ケアを含める)が必要か？

- ・長期間使っていない食べるための筋肉や感覚を刺激し機能を回復させる
- ・口腔や顔面の協調運動の再獲得
- ・脳(脳幹網様体・大脳皮質)への刺激
- ・記憶の想起(手続き記憶)
- ・誤嚥の防止

※協調運動：別々の動作を1つにまとめる。  
※脳幹網様体：覚醒と関わりが大きい。  
※大脳皮質：認知や言語と関わりが大きい。

●次回は摂食嚥下療法室の活動についての話の予定です。

# 知っておきたい 専門職の仕事

# 言語聴覚

## 食べる為のケアやりハ

### 第1回摂食嚥下の基礎

#### 1、言語聴覚士とは

まずは、知らない方も多いと思いますので言語聴覚士（通称 ST）の紹介をします。ことばのリハビリや飲み込みのリハビリを皆さんは聞いたことがありますか？ことばや飲み込みのリハビリは言語聴覚士が中心となりリハビリを行っています。

その中でも近年、言語聴覚士の領域として、摂食嚥下分野が多くなってきています。高齢社会を迎えた日本において、口から食べることに困難を有した方々が急増し、これからも加速していくことが予想されています。

#### ST(言語聴覚士)の仕事

##### 言語障害

上手く話せない  
話が理解できない  
文字が読めない

##### 音声障害

喉頭がんなどで  
声帯を失い  
声が出にくい

##### 嚥下障害

上手く噛めない  
上手く飲み込めない

「言語」「聴覚」「嚥下」などの  
障害を持つ方のサポートをするのが、  
言語聴覚士の仕事です。



#### 2、摂食嚥下障害とは

摂食嚥下障害とは、脳血管障害や、高齢で日常生活レベルが低下（目が見えにくくなった、足腰が弱くなることと同じように「食べる・飲み込む力」も徐々に低下すること）、肺炎などの感染症や手術後による長期の臥床、耳鼻咽喉科的疾患などが原因になり、食べる・飲み込む能力が低下することをいいます。摂食嚥下障害が進行すれば肺炎を繰り返したり、栄養状態が悪化し、様々な疾患を引き起こします。

#### 3、誤嚥や誤嚥性肺炎とは

誤嚥とは、唾液・胃内容物・食べ物・口腔内細菌が誤って気管に入ってしまうことです。誤嚥性肺炎とは、誤嚥することにより生じる肺炎です。多くが睡眠時に唾液や口腔内細菌が気管に流れ込んでしまうことで発症するといわれています。高齢者の寝たきり状態を長期化させる原因として重要な疾患となります。

誤嚥性肺炎を予防する方法として、嚥下状態改善の為の摂食嚥下リハビリテーションや誤嚥した際に肺炎発症のリスクを少なくする為の口腔ケアが挙げられます。

# みんなの掲示板

## 回復期リハビリ病棟では、 患者様・御家族様向けに 広報誌「OHANA」を作成しています。



病棟で行われているイベントや健康教室などの紹介や福祉用具・病気についてなど様々な内容で作成しています。2～3ヶ月毎に不定期で発行され、病棟や外来に置いてあります。たくさんの皆様の目に触れることができると嬉しいです。是非手にとって下さい。

タイトルの「OHANA」はハワイ語で「家族」という意味。また、つながり・仲間といった意味も指します。



### 編集後記

11月も下旬となり寒くなってきました。冬は気温が下がり空気が乾燥し体調を崩しやすくなりますので、くれぐれもご注意ください。「地域医療連携の現場から」としていちき串木野市置歯科医師会いちき串木野支部長の糸永昭仁先生に当院での歯科回診の経験談を書いていただきました。「言語聴覚士の仕事」として当院摂食嚥下療法室長の尾崎からの報告にもあるように、近年口腔ケアと口から食べることの重要性が注目されています。そのため歯科医療との連携も重要になっています。今回からさゆりクリニック院長丸田小百合先生に「糖尿病と共に生きる」と題して4回にわたり執筆していただきます。糖尿病はいろいろな合併症をもたらす問題の多い病気ですので、一緒に学んでいきましょう。

(文責 寺田)

### 今号の表紙

art

「sunset glow II」  
第61回県美展で入選。



### profile

室屋裕太氏  
1988年生まれ、薩摩川内市出身。  
いちき串木野市にある就労継続支援B型ワークスペース i (アイ)に通っています。写真は光と夕日をテーマとした渾身の作品。夕日が好きで、夕日をテーマとしてたくさんの絵を書いているそうです。